

トラベル懇話会 11月例会レポート

グループディスカッション

<討議テーマ>

A 旅行産業の魅力向上に向けた経営課題

<人材、社員育成、経営人材、DX、収益構造など>

B 旅行産業の魅力向上に向けた海外旅行のあり方

<航空座席、魅力ある旅づくり、政策課題

(パスポート取得、教育旅行) など>

B 旅行産業の魅力向上に向けた国内旅行・インバウンドのあり方

<収益性、地方創生、地域の活性化、オーバーツーリズムなど>



11月の例会はグループディスカッション形式で開催されました。講師の方にお話を伺う通常の例会とは異なり、会員がそれぞれの意見を率直にぶつけ合える貴重な機会とあって、昨年11月から1年ぶりとなった全員参加型ディスカッションは大いに盛り上がりました。

まとめや結論より率直な意見交換を重視

今回のディスカッションのお題として設定されたのは、旅行産業の魅力向上に向けて業界が考えて行かねばならない「経営課



題」「海外旅行のあり方」「国内旅行・インバウンドのあり方」の3つ。この中から関心が高いテーマを事前に選んだ参加者が、全10テーブルに分かれて意見を交換しました。



開始前に百木田康二会長が「ディスカッション形式での例会は4回目となりますが、前回は『まだ話したくない』というご意見がありましたので、今日はできるだけ議論のための時間を多く取りました。ぜひ活発なご意見を」と呼びかけました。

続いてセミナー委員会の高橋正浩委員長



が「今日は結論を得たり意見をまとめるのが目的ではなく、参加者の皆さんに存分にディスカッションしていただくことが最も重要な点です」と説明。自由闊達な意見交換こそが今回の



開催趣旨だという点を徹底した上で、前回の 40 分から 55 分に時間拡大したディスカッションをスタートしました。

各テーブルであらかじめ選んだファシリテーターの進行と、1 人 1 回 2 分程度の発言で少しでも多くの参加者が複数回の発言を確保できるようにするため時間管理を任されたタイムキーパー役のサポートにより、各テーブルで活発な意見が交わされました。



<各テーブルの発表者>

上段左から順に：眞下氏、松本氏、坂口氏

櫻井氏、中鉢氏、田中氏、榊原氏、庄司氏、早坂氏、中山氏



ディスカッション形式は今後も継続へ

ディスカッション後は、各テーブルから選ばれた発表者が議論の内容を 2 分間で報告。テーブルごとに交わされた意見のポイントを要約して、参加者全員に説明しました。

最後に百木田会長が各テーブルの発表内容を整理したうえで、率直かつ真剣に意見交換してくれた参加者全員に感謝を示しました。

また「今日の議論は、まとめたり提言にしたりするには至っていないものですが、ここで議論された皆さんのご意見は、必ず今後につながっていくと思います。1 人ひとりが当事者として、直面する課題を乗り越え、さらなる高みを目指すにはこういう場でディスカッションを重ねていくことが重要になるはずです。今後もディスカッションの場を積極的に設けていきたいのでよろしくをお願いします」とトラベル懇話会会員に協力を呼び掛けて総評を締めくくりました。



